

様式 3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部 ・学科等 の名称	専任教員数							非常 勤教 員	専任教員 一人あた りの在籍 学生数	備考
	教授	准教 授	講師	助教	計	基準 数	うち 理学 療法 士又 は作 業療 法士 数	助手		
医学部 保健学科 作業療法 学専攻	4人	2人	1人	3人	10人	6人	8人	0人	0人	7.4人
計	4人	2人	1人	3人	10人	6人	8人	0人	0人	—

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼任)
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	基礎系 学術リテラシー	8	平井祐樹、他	兼任
		基礎系 統計，科学史，現代 社会論，健康	30	森田 洋、他	兼任
		基礎系・言語 英語，中国語，ドイ ツ語，フランス語， ハングル，スペイン 語	60	リアナ ジョセフ、他	兼任
		教養系 人文・社会，自然・ 技術，環境・健康	60	小池洋平、他	兼任
		専門基礎系 言語，基礎科学	30	安達弘通、他	兼任
		教育学	30	河野桃子、他	兼任
専門基礎	人体の構造と機能及び心身 の発達	生化学	15	松田和之	専任
		生理学	15	安尾将法	専任
		生理学実習	30	安尾将法	専任
		組織学	15	寺田信生	専任
		系統解剖学	15	寺田信生	専任
		中枢神経解剖学	15	寺田信生	専任
		肉眼解剖学実習	30	寺田信生	専任
		人間発達学	15	西澤公美、他	専任
	疾病と障害の成り立ち及び	栄養学	8	矢崎正英，他	専任・兼任

	回復過程の促進	病理病態学Ⅰ	15	太田浩良	専任
		微生物と感染	15	長野則之	兼任
		遺伝と病気	15	中山佳子、他	専任
		臨床医学概論	15	伊澤 淳、他	専任・兼任
		内科学	30	伊澤 淳	専任
		整形外科学	30	青木 薫、他	専任・兼任
		精神医学Ⅰ	15	杉山暢宏	専任
		精神医学Ⅱ	15	杉山暢宏	専任
		小児科学	15	中山佳子	専任
		臨床神経学	30	矢崎正英	専任
		薬理学	15	内藤隆文	兼任
		高次脳機能障害学	15	杉山暢宏	専任
		救命蘇生学演習	8	池上俊彦	専任
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	健康科学概論	15	會田信子、他	専任
		公衆衛生学	15	横川吉晴、他	専任
		保健・医療・福祉政策論	15	會田信子、他	専任
		国際医療協力論	15	奥野ひろみ、他	専任
		リハビリテーション概論	15	青木 薫、他	専任
		生命倫理学	8	玉井真理子	専任
		臨床心理学	15	玉井真理子	専任
		チーム医療演習	10	木村貞治、他	専任
専門分野	基礎作業療法学	運動学	30	百瀬公人、他	専任
		作業療法概論	15	上村智子	専任
		基礎作業学	15	小林正義	専任
		基礎作業学実習Ⅰ	30	務臺 均、他	専任
		基礎作業学実習Ⅱ	30	務臺 均、他	専任
		作業療法研究法	15	務臺 均、他	専任
		ゼミナール	90	佐賀里昭、他	専任
	作業療法管理学	作業療法管理学	15	小林正義	専任
	作業療法評価学	身体障害評価学実習	30	務臺 均、他	専任
		精神障害評価学実習	30	小林正義、他	専任
		発達障害評価学実習	30	佐藤正彬、他	専任
		作業解析学実習	30	務臺 均、他	専任
	作業治療学	身体障害作業治療学Ⅰ	15	上村智子	専任
		身体障害作業治療学Ⅱ	15	小林正義	専任

		身体障害作業治療学 特論	15	佐賀里昭	専任
		精神障害作業治療学 Ⅰ	15	小林正義	専任
		精神障害作業治療学 Ⅱ	15	小林正義、他	専任
		精神障害作業治療学 特論	15	小林正義	専任
		発達障害作業治療学 Ⅰ	15	佐藤正彬、他	専任
		発達障害作業治療学 Ⅱ	15	田中佐千恵、他	専任
		認知障害治療学Ⅰ	15	岩波 潤	専任
		認知障害治療学Ⅱ	15	上村智子	専任
		老年期作業療法学Ⅰ	15	務臺 均	専任
		老年期作業療法学Ⅱ	15	務臺 均	専任
		日常生活支援論	15	岩波 潤	専任
		日常生活支援論演習	15	上村智子	専任
		義肢装具学	15	佐賀里昭	専任
		臨床技能演習	30	岩波 潤、他	専任
		事例研究法演習	30	佐賀里昭、他	専任
		生活支援機器論	15	上村智子	専任
	地域作業療法学	社会生活自立支援論	15	小林正義	専任
		余暇活動実践論実習	30	田中佐千恵、他	専任
		地域作業療法学	15	上村智子	専任
		高齢者リハビリテー ション概論	15	上村智子	専任
	臨床実習	作業療法見学実習	25	佐賀里昭、他	専任
		作業療法評価学実習	48	岩波 潤、他	専任
		作業療法治療学実習	48	岩波 潤、他	専任
		地域作業療法学実習	75	務臺 均、他	専任
		臨床実習Ⅰ	200	佐賀里昭、他	専任
		臨床実習Ⅱ	200	佐賀里昭、他	専任

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

● 基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
作業療法関連施設における、作業療法士およびその他の専門職種の役割・業務の見学	1年集中	作業療法概論	1年前期
		基礎作業学	1年前期
		基礎作業学実習Ⅰ	1年前期
身体障害・精神障害・発達障害領域における作業療法の各種評価方法の見学と実践	2年後期	リハビリテーション概論	1年後期
		身体障害評価学実習	2年前期
		精神障害評価学実習	2年前期
		発達障害評価学実習	2年前期
		作業解析学実習	2年前期
		日常生活支援論	2年前期
身体障害・精神障害・発達障害領域における作業療法の治療の見学と実践	3年前期	身体障害作業治療学Ⅰ	2年後期
		精神障害作業治療学Ⅰ	2年後期
		発達障害作業治療学Ⅰ	2年後期
通所リハビリテーション・訪問リハビリ	3年前期	高齢者リハビリテーション概論	2年前期

テーションの見学および実践		老年期作業療法学Ⅰ	2年後期
		余暇活動実践論実習	2年後期
身体障害・精神障害・発達障害領域における、作業療法の評価・治療・管理業務等の総合的な実践	4年前期	身体障害作業治療学Ⅱ	3年前期
		精神障害作業治療学Ⅱ	3年前期
		発達障害作業治療学Ⅱ	3年前期
		老年期作業療法学Ⅱ	3年前期
		認知障害治療学Ⅰ	3年前期
		日常生活支援論演習	3年前期
		義肢装具学	3年前期
		身体障害作業治療学特論	3年後期
		精神障害作業治療学特論	3年後期
		認知障害治療学Ⅱ	3年後期
		臨床技能演習	3年後期

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
○	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3

	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	医学部自己点検・評価委員会
委員名（委員長）	医学部長
組織の開催頻度	1年に一度程度
組織の取り組み内容	・入学者選抜のあり方についての点検・評価 ・教育プログラムの点検・評価と教育改革への提言 ・学修目標への到達度の分析と学修目標の見直し ・学生による授業評価結果の分析
自己点検・評価結果の公表	HPで公表 (URL: https://www.shinshu-u.ac.jp/guidance/disclosure/corporation/check/)

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	教務委員会
	委員構成等	保健学科各専攻の教務委員
	改善の仕組みの実際	・年1回FDでシラバス作成の講習会を全教員が参加し、シラバスの質の向上を図っている。 ・教務委員が保健学科全シラバスを点検し、適宜修正を行っている。

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

2021年に実施された一般社団法人リハビリテーション教育評価機構の教育評価認定審査において、本学は、適合（S）の最高水準の判定を得ている。
シラバスガイドラインに基づく教員間のシラバス点検、学生による授業アンケート・教員による授業アンケート、FD研修などを実施して内部質保証に努めている。